生協ひろしま

CSR Report 2014

2013年の
事業・社会・環境についての報告書

生協ひろしまの基本理念

私たちは、協同の力で、より豊かなくらしの創造と平和な社会づくりに貢献します

21世紀ビジョン

日々のくらしに役立つ生協づくり

生協づくり3つのテーマ

①くらしに役立つ商品づくりを進めます
②誰もが利用できる事業を進めます
③だれもが参加でき、共に学び育つことのできる場をすすめます

編集方針

生協ひろしまは2006年にCSR経営を進めることを宣言し、環境に関する活動とともに社会的な活動を「社会・環境報告書」にまとめました。2012年からは「CSR Report事業・社会・環境報告書」にあらため事業と組合員活動の両輪から成り立つ生協ひろしまのCSR活動（社会的責任）をステークホルダーの皆様に情報開示しています。

この報告書は生協ひろしまの基本理念に則して推進している事業や活動、その進捗状況を報告することを基本とします。生協ひろしまが地域社会で果たすために取り組んできた活動の一部ではありますが報告させていただきます。

報告対象期間

2013年度の主な活動を中心にまとめています。補足的に当該年度以前の活動や実績、将来の目標も報告しています。事業概要は2014年度3月31日現在のものです。

報告対象範囲

生協ひろしまとその関連事業所、子会社を含みます。

ホームページの情報開示について

本レポートは生協ひろしまホームページにおいても公開しています。

http://www.hiroshima.coop/about/csr_report/index.html

CONTENTS

ごあいさつ
生活協同組合ひろしまについて
事業概要
2013年度 CSR Report 事業・社会・環境活動報告

環境 P4−7
- 環境エネルギー政策
- 2013年度環境取組み
- 環境ロードマップ
- 2013年度削減実績
- リサイクルの推移
- 環境会計

食 P8−11
- 食品添加物基準の見直し
- 地産地消と産直の取り組み
- 農業生産支援制度
- ぜったいじまん商品
- 食と命を学ぶ

平和 P12−13
- 子どもによる子どものための碑めぐり
- ピースナイター
- 平和行進
- ピースアクションinヒロシマ

地域貢献 P14−15
- お買い物事業
- つながり作り
- 被災地支援
- 行政との連携

事業 P16−17
- 声の改善委員会
- 事業紹介
- 子会社
- プレスリリース

「CSR Report」の発行にあたって

生協ひろしま 専務理事 **横山 弘成**

地域社会になくてはならない生協ひろしまを目指し、良質な共生社会づくりをすすめます。

福島第一原子力発電所の事故により、原発や将来の電力に対する不安がいっそう高まっています。2013年5月に「生協ひろしま・環境エネルギー政策」をまとめ、政策の中で、原子力発電に頼らないエネルギー政策の提言を行いました。また再生可能エネルギーを地域に分散できる仕組みの構築を通じた地域の活性化を行う取組みとして、世羅町をモデルケースに地域主導の再生可能エネルギーの事業化と地域の活性化を図る検討協議会に参加しました。エネルギーだけでなく、食料自給や地域福祉など総合的な地域づくりの実践事例づくりが進んでいます。

広島県の人口は1998年をピークに減少し続け少子高齢化が進み、働き手となる生産年齢人口も減少しています。福祉や子育てなど暮らしの様々な場面で安心して暮らせる地域社会づくりが今後、ますます重要となります。生協ひろしまでは、昨年度開始した移動店舗事業に新たに2台の増車を行い、配送エリアを拡大し、販売ポイントを増やしました。また店舗でお買い上げ頂いた商品を配送するお買い上げ配送サービスの実験導入も行いました。高齢者を中心に利用され、「重たいものも買えるようになった」「安心して買い物ができる」など喜びの声をいただいています。また、だれもが安心して立ち寄れる場として佐伯区五日市に「寄ってこ〜家」を開設しました。

組合員と職員、お取引先が一緒になって商品のよさを学び広める取組み「ぜったいじまん商品」のお知らせ活動も定着しました。多くの組合員に商品のよさを実感していただけました。また地元メーカーと組合員が共同し、手軽でおいしい「食材セット」の開発もおこないました。メニューも増え、好評をいただいています。

産直活動では恒例の「米づくりの会」に多くの組合員と職員が参加し、米づくりを体験しました。生産者との交流を通じて農業や地産地消の大切さを学びました。

東日本大震災から3年が経過しましたが、被災地の復興は遅々として進んでおらず、体験の風化も進んでいます。被災者のみなさんが一番恐れられていることは「忘れ去られること」だそうです。生協ひろしまは職員と組合員からなるお好み焼き隊を結成し被災地の仮設住宅などで広島のお好み焼きを振舞いました。今回は虹のコーラスも同行し、歌による支援も行われ被災地に歌と笑顔の輪が広がりました。

南海トラフ地震など県内での大規模災害を想定して自治体や諸団体と災害時の物資提供等の協定も進んでいます。店舗での防災フェアの開催や行政主催の防災訓練にも参加しました。行政や地域と連携し、防災意識を高めました。

被爆から69年、被爆者の平均年齢は78歳を越え、被爆の実相をどう継承していくかが重要な課題となっています。8月にはヒロシマの子どもたちが自分の言葉で全国から訪れた子どもたちに被爆の実相を伝える子ども碑めぐりガイドの取組みが行われました。子どもたち同士の活発な意見交流も行われ、被爆の実相を継承する小さな芽が育まれました。

TTP協定の問題や、2015年度の消費税10％への増税、社会保障制度の問題など組合員の暮らしを取り巻く情勢は、ますます厳しくなることが予想されます。生協は組合員の願いを他者との協力の中で実現する組織です。組合員は地域住民でもあります。生協ひろしまが地域社会になくてはならない存在として、いつでも頼りにされる組織となるようこれからも行政や地域と連携し取り組んでまいります。

本レポートでは1年間の諸活動をまとめ紹介しています。多くの方にご高覧いただき、生協ひろしまに対し、率直なご意見やご助言をいただければ幸いです。

2014年7月

生協とは

消費者の協同組織「生協」

生協は、くらしを豊かにしたいという組合員の願いを実現するためにみんなで話し合い、力を合わせて商品を開発し、商品･サービスを通じたくらしの見直し活動に取り組む消費者自身の協同組織です。一人ひとりでは弱い立場の私たちも、みんなで力を合わせれば、大きな力を生み出すことができます。

みんなの協力で作られている生協は、組合員自身が《出資》し、
商品を《利用》し、自分たちの手ですすめていく《運営》組織です。

みんなで出資

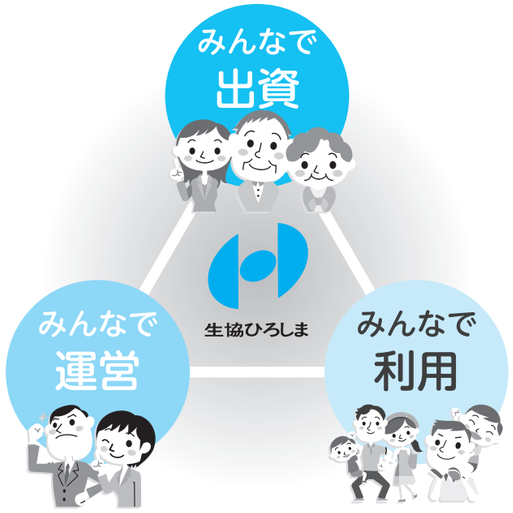
生協は、消費者一人ひとりが「より安全で、より安い物を利用したい」という願いをこめて、家計の中から拠出されたお金［出資金］を出し合って作られました。出資金はみんなの願いのこもった大切なお金。だからみんなのために使われます。

みんなで運営

生協は、組合員自身のものです。「よりよい商品」も「豊かな生活」も黙っていたのでは実現できません。商品のことなど、みんなで意見を出し合って、みんなの力で少しずつ改善されています。また、くらしを豊かにするために、地域のことや環境・子育て・福祉など、班の中や、組合員のつどい、コープ委員会の中でみんなで話し合っています。

みんなで利用

生協の商品は、利用する立場の組合員が、手を加え、声を出し合って作ってきた安全・安心の商品です。みんなで作ったものだから、みんなで利用し、より安く、よりよい商品に育てています。



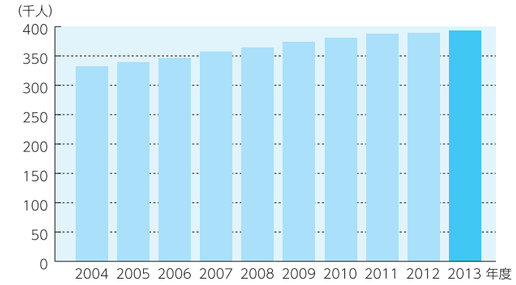
生協ひろしまの事業概要

会社概要 (2014年3月31日現在)

名　　称	生活協同組合ひろしま
創　　立	1984年10月（昭和59年）
本　　部	広島市西区草津港2-8-42
役　　員 （常勤）	理 事 長　林　　辰也 専務理事　横山　成弘 常務理事　宗本　干城
活動エリア	広島県全域（定款）
組 合 員 数	392,615名
県内組織率	32.0%
出 資 金 額	131億7,892万円
供　　給　　高	419億1,057万円 （宅配事業　328億2,566万円） （店舗事業　90億8,490万円）
福祉事業収入	12億588万円
その他事業収入	14億8,658万円
従 業 者 数	総合職員　615人 専任職員　300人 パートナー職員　847人 福祉専門職員　191人

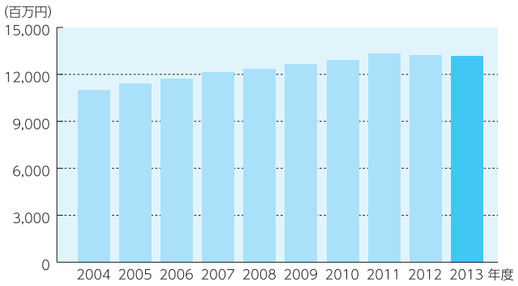
組合員の推移

年　度	組合員数	前年比増減比(%)	指数 2004年度=100
2004年度	332,873	1.7	100
2005年度	338,952	1.8	102
2006年度	346,498	2.2	104
2007年度	356,855	3.0	107
2008年度	364,116	2.0	109
2009年度	373,475	2.6	112
2010年度	380,991	2.0	114
2011年度	386,071	1.3	116
2012年度	389,326	0.8	117
2013年度	392,615	0.8	118



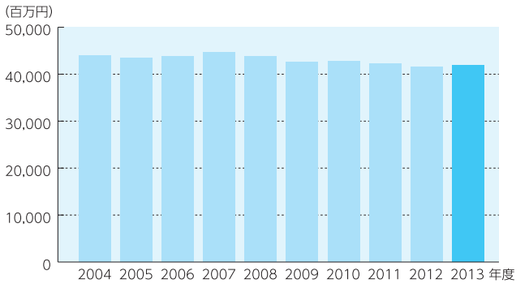
出資金の推移

年　度	出資金(単位=千円)	前年比増減比(%)	指数 2004年度=100
2004年度	11,023,861	4.0	100
2005年度	11,409,966	3.5	104
2006年度	11,701,889	2.6	106
2007年度	12,133,909	3.7	110
2008年度	12,334,092	1.6	112
2009年度	12,668,309	2.7	115
2010年度	12,927,589	2.0	117
2011年度	13,320,088	3.0	121
2012年度	13,202,672	-0.9	120
2013年度	13,178,925	-0.2	120



供給高の推移

年　度	出資金(単位=千円)	前年比増減比(%)	指数 2004年度=100
2004年度	43,920,368	-2.1	100
2005年度	43,417,857	-1.1	99
2006年度	43,789,025	0.9	100
2007年度	44,685,865	2.0	102
2008年度	43,863,419	-1.8	100
2009年度	42,581,654	-2.9	97
2010年度	42,756,832	0.4	97
2011年度	42,268,904	-1.1	96
2012年度	41,505,005	-1.8	95
2013年度	41,910,577	1.0	95



環　境

原子力に依存しない持続可能なシステムへの変換へ

「生協ひろしま環境・エネルギー政策」をまとめました。

東日本大震災にともなう東京電力福島第一原子力発電所の事故により日本の電力とエネルギー政策のあり方が根本的に見直される事態となりました。原子力に依存しないエネルギーの自給体制の構築とともに、地域の自立的な循環システムを確立と活性化に向け、生協ひろしまとして取り組む課題を明らかにしました。

▲組合員を対象に環境・エネルギー政策学習会を開催

エネルギー政策5つの視点

既存の原子力発電所の老朽化や地震の頻発によるリスクの増大、放射性廃棄物の処分の問題をふまえ、原子力への依存を低減し、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換に向け、生協ひろしまは5つの視点を持ちながら自然エネルギーの拡大、省エネ、節電による使用電力の大幅な削減を進めていきます。

エネルギー政策の5つの視点

①安全供給の確保
②環境への適合
③市場原理の活用
④安全の確保
⑤国民の参加

▲「きれいなひろしま・まちづくり市民会議」が主催する「ゴミゼロウォーク」に参加し、市内の歩道や側道のゴミ拾いを行いました

地球環境への配慮と原子力に頼らないエネルギーの自立に向け、3つの課題に取り組みました

1. 事業活動におけるCO_2の削減

コープ東広島の太陽光パネルや32事業所に設置されているエコアラーム、電気自動車の導入、配送コースの見直しなどこれまでもCO_2の削減に取り組んでまいりました。この取組みを継続、進化させ、2020年度には2005年度対比15%削減を目標に取り組んでいきます。

▲各事業所に設置されているエコアラーム。日にち、時間ごとに電気使用量をチェック

▲福祉事業部に導入した電気自動車

2. 地球に優しいくらし

地球に優しいくらしとは持続可能で人と人とのつながりを大切にする生活スタイルを表します。生協らしい「無駄のないくらし」「賢いくらし」「おたがいさまのくらし」にまとめました。組合員活動では家計簿モニターによる家庭エネルギーの実態調査、地球環境問題を学ぶ場への参加、省エネ対策の「見える化」などを提案しました。事業活動では環境情報を掲載した商品や省エネ機器のリースを検討、省エネ節電に向けた総合的なくらしの提案を行いました。

▲店舗ではLED照明を使用

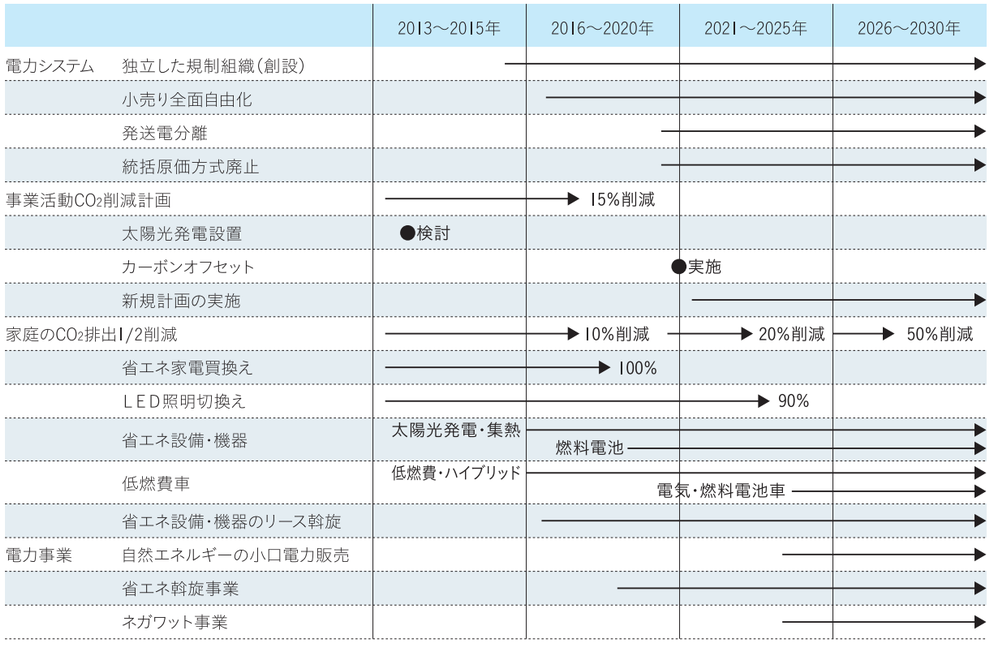
▲組合員との田んぼの生き物調査

3. 地域エネルギーによる地域の活性化

生協ひろしまが重視しているのは自然エネルギーの分散できる仕組みを構築し、地域主導のエネルギー開発とその地域の活性化です。積極的に地域ネットワークに参加し、生協ひろしまの協同の力と総合的な事業で地域再生の一翼を担っていきます。

▲世羅町地域主導型再生エネルギー事業化検討協議会に参加しました

取り組むべき課題のロードマップ



電気使用量を3.7%削減

CO_2を6.5ｔ削減 (根拠8817kWh/年×0.000738)

事業活動によるエネルギー資源の投入

項　目	使用量	単　位	前年対比
電気	20,614	千kWh	96.3%
都市ガス	21,457	m3	114.4%
LPガス	43,048	m3	105.1%
水道	78,390	m3	100.3%
灯油	800	ℓ	98.9%
車両（軽油）	664,229	ℓ	99.6%
車両（LPG）	66,287	ℓ	88.2%
車両（ガソリン）	207,613	ℓ	90.2%
注文書等商品案内	8,783	t	143.4%
シッパー内袋	146	t	115.9%
レジ袋	5	t	100.0%
トレイ	10	t	111.1%
ラップ（インストアー）	8	t	66.7%
ドライアイス	2,194	t	96.5%

排出物の発生量

項　目	発生量	単　位	前年対比
CO_2	11,054	t-CO_2	91.9%
プラスティック類	41.4	t	72.3%
可燃ごみ	125.3	t	89.3%
生ごみ	97.9	t	83.6%

排出物リサイクル量

項　目	リサイクル量	単　位	前年対比
ダンボール	426.9	t	64.3%
発泡スチロール	23.3	t	106.9%
シッパー内袋	43.4	t	84.1%
注文用紙＋事務系・機密書類	22.0	t	37.2%
野菜くず	197.4	t	117.9%
廃食油	11.4	t	89.1%
魚あら	61.8	t	92.8%
ビン・缶	8.7	t	84.5%

リサイクルの推移

項　目	回収形態	回収実績量（t）					再生品
		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	
飲用パック	支所・店舗	121.8	114.6	108.0	99.7	94.8	コアンシロール
たまごパック	支所・店舗	48.9	50.5	50.4	46.6	46.5	たまごパック
発泡トレイ	支所・店舗	22.7	22.2	22.0	20.9	20.4	トレイ
透明トレイ	店舗	3.5	4.3	4.1	3.9	4.9	トレイ
シッパー内袋	支所	52.2	59.2	55.4	39.8	58.4	再生フィルム、文房具
チラシ類	支所	4,111	4,233	4,296	4,319	4,386	チラシ
ペットボトル	店舗	22.6	27.6	30.3	46.3	26.7	プラスチック原料
合　計		4,382.7	4,511.4	4566.2	4576.2	4637.7	

環境会計

環境保全コスト

（単位：千円）

主な取組み内容	11年度	12年度	13年度	前年対比
浄化槽の点検、グリストラップ清掃	2,859	3,414	2,929	85.8%
ダンボール圧縮機、発泡減容器リース料等	3,200	2,885	2,885	100.0%
飲用パック等の自主回収	1,425	1,196	500	41.8%
事務系紙類、機密書類等のリサイクル	2,746	2,023	1,004	49.6%
生ごみ、廃食油、魚残渣のリサイクル	5,763	5,324	5,235	98.3%
一般・産業廃棄物の処理・処分	29,186	29,611	27,609	93.2%
再商品化委託料	6,754	5,751	3,860	67.1%
合　計	51,933	50,204	44,022	87.7%

経済効果

（単位：千円）

効果内容	11年度	12年度	13年度	前年対比
ダンボール、ペットボトル、発泡スチロール等のリサイクル	14,984	8,002	5,768	72.1%
商品カタログ、飲用パックのリサイクル	22,204	20,932	19,738	94.3%
レジ袋使用削減分	10,972	10,443	11,735	112.4%
再商品化委託料削減分	9,306	8,071	7,118	88.2%
合　計	57,466	47,448	44,359	93.5%

食

「食の安全・安心を守る」ことを大きな柱として様々なことに取り組みました

食品添加物基準を見直しました

食品添加物の総量規制や不使用品目の制定など生協では独自の基準を設け、これまで食の安全・安心に取り組んできました。2013年4月には、国内外の信頼できるデータを用い、最新の科学的知見に基づいて食品添加物基準を見直しました。

▲県内12会場で食品添加物の学習会を開催し215名が参加しました

新しい区分けで食品添加物を分類

before	after
管理添加物・不使用 co･op商品には意図して使わない	不使用添加物 co･op商品には意図して使わない
管理添加物・留意使用 有用で代替品がない場合のも留意して使用	使用制限添加物 使用する食品、使用量、規格成分などの使用を制限する
保留添加物 データが不十分等の理由で保留	一般使用添加物 使用することができる
一般使用添加物 使用することができる	

食品添加物基準を見直した4つのポイント

1 科学的根拠に基づく
イメージではなく、データを基に判断

2 国のリスク評価を基本とする
さらに独自のリスク評価を行い、食品安全行政の不備を埋める

3 発ガン物質は使用しない
安全性の担保が不十分な物質は意図して使わない

4 総量規制ではなく個別評価をする
個々の物質について安全性を評価していく

産地見学と交流

産地交流会や、産地見学を開催し生産者の顔が見える活動をすすめています。生産者の思いや苦労を知ることで、組合員と一緒になって食について考えました。子どもたちの参加も多く食育にもつながっています。

▲らんらん交流会(世羅町)

▲石見生産者交流会(島根県邑南町)

▲とうもろこしもぎ取り体験(油木町)

▲芋堀り体験会(北広島町)

▲甲奴産地交流会(三次市)

米づくりの体験

田植えや草刈り、稲刈りなどの体験や生産者との交流を通じて、米作りについて深く知ってもらおうと職員や組合員に呼びかけ、年5回の米作り体験をおこないました。「石見米づくりの会」「於手保あきろまんの会」の2部門で募集し、それぞれ15組のご家族が登録し活動しました。

▲石見米づくりの会

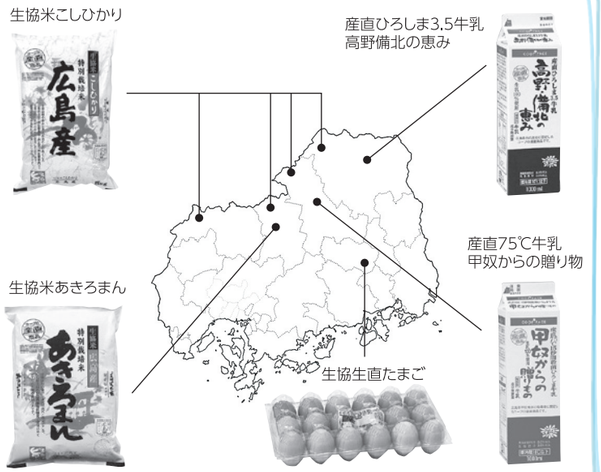
▲於手保あきろまんの会

地産地消と産直の取り組み

生協ひろしまでは「食の安心」を守り、「地域の活性化」に貢献するために地産地消や産直に取り組んでいます。

生協ひろしま産直5原則

1. 産地、生産者が明確であること
2. 生産方法がハッキリしていること
3. 生産者と組合員が交流できる環境づくりを進めていること
4. 事業として成り立ち継続できること
5. 生産者と組合員が対等、平等なこと



農業生産者支援制度

生協ひろしまでは広島県の農業活性化の役に立つため、「農業生産者支援制度」を設けています。支援先は情報開示できる栽培・飼育履歴があるなどの条件を満たした生産者の中から選考し、3部門での表彰者に支援金を贈呈しました。

表　彰　者

生協ひろしま賞	宮崎 留美子
中国新聞社賞	JA安芸　活采倶楽部
JA安芸	芝床農園

▲贈呈式の様子

ハートランドひろしま

農業生産法人㈱ハートランドひろしまでは、ハウス栽培や露地栽培などで、安心して利用できる野菜づくりはもちろん、地域の活性化を目的として日々農業に励んでいます。農業体験イベントなどを定期的に開催し、組合員さんに生産のこだわりや、苦労を実感していただく活動にも取り組んでいます。

▲ほうれんそうを育てるハウス内を見学する組合員

▲ミニトマトを栽培する様子

▲知的障がいをお持ちの方が社員として働いています

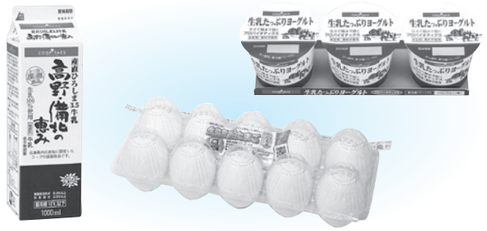
ぜったいじまん商品

店舗・無店舗事業では、組合員と職員の声から選ばれた商品を「ぜったいじまん商品」としてオススメしました。品質・味・価格に絶対の自信を持てる「ぜったいじまん商品」を通じ生協の「食」に対するこだわりを伝えました。

▲店頭に並ぶぜったいじまん商品

コープフェイス商品の見直し

生協ひろしまのオリジナル商品のコープフェイス商品の規格を見直し、原料や価格などを変更しました。



見直し例

○**国産大豆小分け豆腐**
→賞味期限の延長

○**生協産直たまご**
→卵殻に印字している賞味期限表示を見やすい印字に変更

○**ちりめん**
→原料価格が下がったため価格を値下げ

食と命を学ぶ

生協ひろしま、コープやまぐち、生協しまねの組合員と職員が産直商品「産直つるい牛」の産地である北海道鶴居村を訪問。3日間かけて、牛の世話の体験や生産者との交流を通じ、食と命をいただくことについて学びました。産地学習に参加した組合員は10月に行われた「産直つるい牛10周年記念学習試食会」の講師となり生産のこだわりを伝えました。

▲牛の世話の体験をしました

▲3生協の組合員と職員15名が参加

▲今後の取り組みについて協議

フェアトレードの取り組み

フェアトレードは発展途上国の農産物や製品などを、市場価格で買い付けるのではなく、農家の生活が成り立つように考慮した「フェア（公正）な価格」で継続的に輸入・消費する取り組みです。商品を購入することで産地の生産や生活環境の向上につながり、国際支援にもなっています。生協ひろしまではフェアトレード商品を定期的にカタログで紹介しています。

▲対象商品をカタログに掲載

ノントレイ商品・少量規格

組合員の要望に応え、店舗では少量規格や、ノン・トレイ商品の品揃えを増やしました。

新産直豚の開発

安全・安心の品質とおいしさを実感できる商品をめざし、新産直豚の開発にとりかかりました。組合員への供給は2014年12月の予定です。

▲建設中の豚舎

食に関する情報提供

広報誌こーぷぱれっとで定期的に「食」をテーマにした記事を掲載し情報発信を行いました。

▲毎月発行の広報誌
こーぷぱれっと

情報内容

4月	サプリメントと食事バランス
6月	食べてる?朝ごはん
7月	身近な危険食中毒
8月	TPPと私たちのくらし
11月	農業から食卓へ 安全・安心リレー
12月	わが家の食卓 もっと安全・安心に

平　和

平和な社会づくりに貢献するため様々な取り組みをすすめています

子どもによる子どものための碑めぐり

広島に住む子どもたちが、平和公園内の碑を説明するガイドとなり、平和を継承するイベント「ピースアクションinひろしま」に訪れた県外の子どもたちに平和公園内の碑を案内しました。ガイドとなった8名の子どもたちは、計5回の講座で学んだ被爆地ヒロシマと平和の尊さを自分たちの言葉で伝えました。

▲大きな声で説明しました

▲参加した子どもたち

▲県外から来た18名の子どもたちを案内しました

▲メモをとりながら説明を聞く子どもたち

ピースナイター2013

広島東洋カープのプロ野球公式戦を通じて核兵器廃絶と平和をアピールする「ピースナイター2013」を8月6日に開催しました。球場入口で来場者全員に平和の尊さを掲載した緑色のピースナイター新聞を配布し、5回裏終了時にその新聞を掲げ球場を緑色に染めました。原爆ドームと同じ高さの観客席は赤色のピースラインを表現し、約3万人の観客とともに平和を願いました。当日は、他のセリーグの公式戦でも同様のイベントを開催しました。

▲約3万人で核兵器廃絶と平和をアピール

▲緑色の新聞を掲げる来場者

▲原爆ドームと同じ高さに赤色の新聞を掲げました

▲吉川晃司さんの歌う「イマジン」に合わせてパフォーマンス

▲演奏に使った被爆ピアノ

碑めぐりガイド

広島市内各所に点在する、被爆の実相を伝える「碑」をめぐり、そのいわれと碑に込められた「思い」をご案内する生協ひろしま碑めぐりガイドの会が発足から25周年を迎えました。被爆者の高齢化が進み、当時の事を知る人が少なくなった今、碑めぐりガイドの活動が重要になっています。

▲碑めぐりの様子

生協ひろしま碑めぐりガイドの会

1988年に発足。修学旅行で訪れる子どもたちに平和公園内の碑の案内をすることをメインに活動。
13年度は151回活動し13,960名に案内を行いました。

平和行進

核兵器廃絶と平和な世界を願い毎年「市民平和行進」を行っています。2013年は、広島市、東広島市、呉市、三次市、福山市、廿日市市の6箇所を行進し、職員や組合員の約1,000名が参加し、地域の方に平和をアピールしました。

▲広島市内の様子

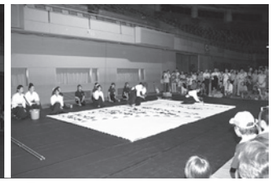
▲廿日市市内の様子

▲三次市内の様子

ピースアクションinヒロシマ

日本生協連と広島県生協連が主催する平和イベント「ピースアクションinヒロシマ　虹のひろば」に全国の生協の職員や組合員など約1,100名が集まりました。原爆の悲惨さを伝えるパネル展示や講演を通じ平和について考えました。

▲平和の歌をうたう虹の合唱団



▲安田女子大学生による大書パフォーマンス

つどいを開催

県被団協や生協ひろしまなど県内6団体が主催の「『戦争も核兵器もない平和な世界を』市民のつどい」を5月に広島市で開催。世界の核情勢や被爆証言を聞き、核廃絶に向けた活動の強化を誓いました。

▲被爆証言を聞きました

ピースフィールドに出店

広島市主催で7月27日㈯～8月3日㈯に開催された世界の人々との平和交流イベント「ピースフィールド」にブースを出店しました。ブース内では、平和のパネル展示やピースグッズ作りをおこないました。

▲ブースを出店

地域 社会貢献

地域社会とのふれあいを大切にし、地域活動に積極的に参加し、地域の期待や要望に応える事業活動を推進しました

お買い物事業

移動店舗

移動店舗車両を新たに2台導入しました。現在、計4台で佐伯区、廿日市市、安佐北区、安佐南区、東区方面の262ポイントを巡回しています。お買い物が不自由な方への支援とともに、地域のコミュニケーション場としても貢献できるよう今後も地域と連携して取組んでいきます。

▲移動店舗車内の様子

▲地域のコミュニケーションの場に

夕食宅配（思いやりコープ弁当便）

お一人暮らしで食事づくりが困難な方やお仕事が忙しい方に好評の「思いやりコープ弁当便」。ご利用者の要望に応え、新たなおかずコース「雅」をスタートしました。
1日2,214食をお届け（2013年3月末現在）

▲ボリュームと栄養バランスを兼ね備えた「雅」コース

▲配送を通じてご利用者を見守り

つながり作り

寄ってこ〜家を開設

地域の人々が気軽に話しが出来る居場所「寄ってこ〜家」を新たに佐伯区五日市に開設しました。

▲行政と連携し居場所作りと継続した支援を行っていきます

認知症サポーターを養成

職員を対象に認知症サポータ養成講座を開催しました。認知症の知識と理解を深め、現場でどのようなサポートが出来るか交流しました。

▲配送現場での事例やサポートについて話し合われました

くらしの助けあい

困ったときはみんなで助け合う「くらしの助けあい」活動。組合員さんの温かい気持ちで運営され、おたがいさまの思いが広がっています。
13年度の活動会員数は1,105人、依頼人数は1,071人、活動時間6,828時間でした。

▲活動会員として庭の剪定作業を手伝う職員

朗読ボランティア活動

目のご不自由な方にも生協をご利用いただけるようカタログの内容を組合員ボランティアがテープに吹き込みお届けしています。現在38名の視覚障がいをお持ちの組合員さんがご利用されています。

▲お届けするテープの編集作業

心をつなぐ被災地支援

「顔の見える支援」をテーマに東日本大震災の被災地、岩手、宮城、福島県にお好み焼き隊を派遣しました。公募で集まった組合員や職員の18名が被災地の仮設住宅などでお好み焼きを振るまい、広島の味と笑顔を届けました。

▲鉄板を囲み現地の方と交流しました

▲広島のお好み焼きに舌鼓

▲歌による交流も行いました

3.11を忘れない

生協ひろしまやNPO法人などで構成される実行委員会が主催となり「3.11東日本大震災を忘れない追悼のつどい2014広島」を開催。約500人が参加し500個のキャンドルと311本のデザインされた傘を使い被災地へ祈りを届けました。

▲キャンドルで描いた「3.11」

▲メッセージが書かれたキャンドルシェード

被災地応援

3月11日に、震災発生時間の14時46分に全店舗で黙祷を行いました。当日は仮設住宅にお茶菓子を送るための募金や、福島産のお米の販売を通じ、被災地支援に取り組みました。

▲全10店舗で募金を呼びかけました

▲復興応援企画として福島産のお米を販売

地域との関わり

コープ高陽では、地域のシニアサロンの会場として組合員集会室を提供したり、自治会主催のお祭りやイベントのお弁当やお菓子の予約を承るなど、地域との関わりを強めました。コープ高陽以外の店舗でも、地域に根づいたお店づくりを進めています。

▲シニアサロンの様子

▲コープ高陽の全景

▲地域の窓口になれるお店を目指します

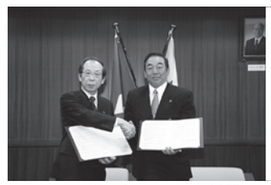
学習会を開催

コープふくしまの宍戸常務を講師に学習会「原発事故に向き合って」を開催。震災当時の状況や、原発や放射線の問題について学びました。

▲組合員や職員約40名が参加

協定による行政との連携

誰もが暮らしやすい地域づくりに貢献するため行政と協定を結び災害時における支援体制を強化しました。


▲東広島市/災害時における生活関連物資の供給などに関する協定

▲広島市安佐北区/地域連携協力に関する協定

▲三原市/防災協力協定

協定締結日

東広島市	4月24日
広島市安佐北区	7月31日
三原市	1月17日

事　業

組合員の求める物やサービスを声に応える形で提供します

声の改善委員会

各部署のメンバーが集まり月2回開催される声の改善委員会。組合員さんから直接頂いた声や、何気ない組合員さんのつぶやき、職員の「こうなればいいのに」など寄せられた声をメンバーがセレクトし、実現にむけ協議を行っています。

▲毎月開かれる「組合員の声改善委員会」

年間220,201件の声を受付

生協ひろしまには年間22万件もの声が寄せられます。多く頂いている声の改善はもちろん、一人の声であってもその背景を考え、改善にむけた協議を行っています。

▲店舗の声のお知らせボード

▲各部署を交えて討議

頂いた声の循環

声の改善委員会で協議した声や結果について組合員に広報をおこなっています。声が届いていることを実感していただくことで声を循環させ、よりよい商品やサービスの提供につなげています。

▲毎月発行される広報誌こーぷぱれっと

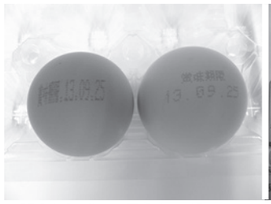
広報誌へのお便り

（お届け表に金額表示の改善について）

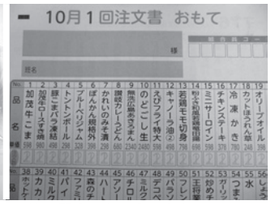
改善ニュースを読んでびっくりしました。私の声を取り上げて、ちゃんと討議してくださったことに感動して胸がいっぱいです。組合員一人ひとりのことをちゃんと大切にしてくださっていることが嬉しくてたまりません。おかげで家計簿を付ける時にとっても便利になりました。

▲広報誌こーぷぱれっと「あなたの声で改善ニュース」へ寄せられたお便りより

改善事例



▲卵の賞味期限を見えやすく改善



▲注文書の色と字の大きさを見やすく改善

事業紹介

無店舗事業

供給高328億2,566万円

週に一度注文していただいた商品をトラックでお届け。センターを県内17箇所に配置し県内全域を配送エリアにしています。

福祉事業

総収入12億346万円

訪問介護、居宅介護、デイサービス、小規模多機能型居宅介護などを通じ利用者に寄り添った福祉事業をめざしています。

▲ケアマネマイスター広島に認定された三宅文枝さん

職員がケアマネマイスターを受賞

ケアマネマイスターは「望ましいケアマネジャー」にふさわしい人物として推薦のあった候補者を選定し、県知事が認定する全国に先駆けた広島県独自の制度です。

店舗事業

供給高90億8,490万円

広島市内に7店舗、呉市内、福山市、東広島市にそれぞれ1店舗の計10店舗を展開。コープ商品や地産地消商品を多数取り揃えています。

夕食宅配事業

利用食数　2,214食

高齢や病気などで食事づくりが困難な方向けに「おもいやりコープ弁当便」のサービスを展開。健康を意識したメニューでお届け。

装い事業

供給高1億3,254万円

ジュエリーや呉服、バッグなど冠婚葬祭に揃えておきたい一品を専門職員が自宅まで伺いご案内しています。

共済事業

加入者数　215,614件

ケガや病気、災害など組合員のくらしの「もしも」を保障するコープ共済。組合員同士の助け合いの心を形にしています。

子会社

コープサービス㈱

売上高　3億602万円

映画やコンサートチケットの販売や保険事業葬祭事業など、食品や雑貨品以外のくらしに関わるサービスを行っています。

コープハウジングひろしま㈱

売上高　10億4,790万円

顧客が求める理想の暮らしを実現する住まいを提供し、社会に貢献できる企業を目指し、「住」に関わる事業を展開しています。

㈱ハートコープひろしま

売上高　1,518万円

生協ひろしまで取り扱う農産品などの仕分けや検品を行っています。知的障がい者の方に働く場を提供するため特例子会社の認可を受けています。

㈱ハートランドひろしま

売上高　1,523万円

ほうれんそうやミニトマトなどを栽培し店舗へ出荷。指定障がい福祉サービス事業所として障がいがある人の社会参加も進めています。

2013年度 プレスリリース（一部抜粋）

4月	被爆者支援団体に支援金を贈呈
5月	石見で田植え交流会を開催
6月	碑めぐりガイド25周年記念講演
7月	フリースペース「寄ってこ〜家」を五日市に開設
8月	移動店舗3号車スタート
9月	被災地へお好み焼隊を派遣
10月	安芸高田市の交流田で稲刈り交流会を開催
11月	移動店舗4号車スタート
12月	高野優 子育て講演会を開催
1月	三原市と災害時における協定を締結
2月	福山生協まつりを開催
3月	認知症サポーター養成講座を開催

生協ひろしま

CSR Report **2014**

発　　行：2014年7月
発　行　者：生活協同組合ひろしま
〒739-0495　広島県廿日市市大野原一丁目2-10
問い合わせ先：総合企画部
TEL　0829-50-0543　FAX　0829-50-0352
URL　http://www.hiroshima.coop
E-mail　hcoop@mail.hiroshima.coop

資源を有効に、古紙を配合した紙を使用しています。